

式 辞

桜の花も満開となり、木々の芽吹きの新緑が醸し出す、清らかで生氣あふれる春の季節を迎えました。この佳き日に、ご多用の中ご来賓の皆様や保護者の皆様方のご出席を賜り、ここに第三十八回岐阜県立大垣東高等学校入学式を挙行できますことは、この上ない慶びであり、心から御礼申し上げます。

ただ今、本校に入学を許可されました、三百二十名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校を代表して心よりお祝い申し上げます。

さて、今から約一ヶ月前の三月十一日、大地震と巨大津波、そして原発事故という三つの大惨事が起こりました。東日本大震災です。多くの尊い命が失われ、甚大な被害は今もなお続いています。

皆さんは今、日本社会が未曾有の難局に立ち至った時に、本校に入学されました。本校では通常どおり、この入学式を挙行することができましたが、東日本大震災で亡くなられた方々、被災された皆さま、とりわけ被害を受けた多くの高校生諸君のことを考えますと、入学式を挙行できますこと自体が、恵まれたことであることに思い至ります。

本日の皆さんの喜びは、皆さん一人一人のたゆまぬ努力の結果ではありませんが、これまで皆さんを育ててこられました保護者やご家族の方々、さらには小中学校でご指導して下さった先生方など、皆さんの周りの多くの方々の支えがあったことを、思い出してください。日本が危機を迎えた今だからこそ、決して忘れてはなりません。

これからの日本社会は、被災者の方々を思いやり、助け合い、支え合っていくことが大切であると思います。人を思いやる気持ちを強く持って、生かされている命に感謝の心を持って、新しい高校生活のスタートを切っていただきたいと願っています。

新入生の皆さんは、自分の将来の夢を実現するため、自分の強い意志で本校を志望され、晴れて本校に入学されました。それゆえ、大きな志と誇りを持って、さらなる努力を重ね、進路目標の実現に向かって、悔いのない充実した高校生活を送っていただきたいと願っております。

二十一世紀になって、すでに十一年目を迎えました。皆さんはまさしく二十一世紀に生き、自分の夢を追求し、そして将来の日本を担うべく活躍する人間です。その皆さんに、私は次の二つのことを、本日、自分自身の心に誓っていただきたいと思います。

まず第一に、知る力「知力」の向上です。学校において知識を詰め込み、知識の量を競う時代から、二十一世紀の教育は、発想力、問題解決能力、探求心、想像力などがますます求められる時代に、大きく変化しています。

本校では、その対応の中心は、毎日の授業であると考えています。授業が勝負です。授業への主体的な取り組みや、積極的な学習姿勢の積み重ねが、その力を確実に育て支えます。これは本校の校章にある三つの峯（三稜）に象徴される、生徒が追求すべき基本方針のひとつ、「豊かな知性」でもあります。

二番目は、「豊かな心と体」です。本校での三年間の高校生活において、心豊かで健やかな心身を、しっかりと育てていただきたいと思います。「高い道徳性」、「調和のとれた心身」は、どんな時代になろうとも、人としてとても大切なものであり、その重みは普遍のものであります。

本校では、社会のリーダーをめざすにふさわしい、心身ともに健康で豊かな感性を備えた人づくりを推進しています。今日からの三年間は、将来の良き社会人となるための大切な基礎を強化し、学問や文化を尊重する豊かな人間性の育成や、生活規範を確立させるための貴重な時間でもあります。

新入生の皆さん、本日の入学式が、皆さんの本校でのすばらしい第一歩となることを願ってやみません。皆さんには新たな時代をリードする人材となるよう、強く期待しています。

改めまして、保護者の皆様、お子様のご入学、まことにおめでとうございます。私たち本校の教職員は、お子様の夢の実現に向かって精一杯努力する所存です。学校と家庭は車の両輪であり、お互いが理解し、協力しあってこそ、初めて心に響く教育ができるものと考えております。日常的な懇談をはじめ公開授業、育友会総会、文化祭などの学校行事に、是非とも多くの方々のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日の入学式にご列席いただきましたご来賓の皆様をはじめ全ての皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、今後とも大垣東高校への温かいご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、式辞といたします。

平成二十三年四月八日

岐阜県立大垣東高等学校
校長 浅野裕司

